

5. 災害調査 飯豊雪崩災害調査 (2015. 3. 4-10)

研究代表者	雪氷：阿部 修	実施期間	平成 26 年度
研究参加者	雪氷：小杉健二、中村一樹		

[目 的]

2015年3月4日8時20分頃、飯豊町高峰の白川湖側を通る主要地方道米沢-飯豊線で雪崩が発生した（山形新聞2015年3月5日）。巻き込まれた車両や人的被害はなかった。本調査の目的は、現地の雪崩跡および積雪が時間とともに変質する前に災害調査を行い、雪崩の発生原因を明らかにすることにより、災害防止に資することである。

[実施内容]

3月4日に雪崩現地調査（図1）および10日に周辺斜面の雪崩安全点検を行った。今回発生した雪崩は、面発生湿雪全層であった。10日における白川ダム管理支所における積雪深は187cmであった。



図1 雪崩発生地点（+印）と走路（矢印）

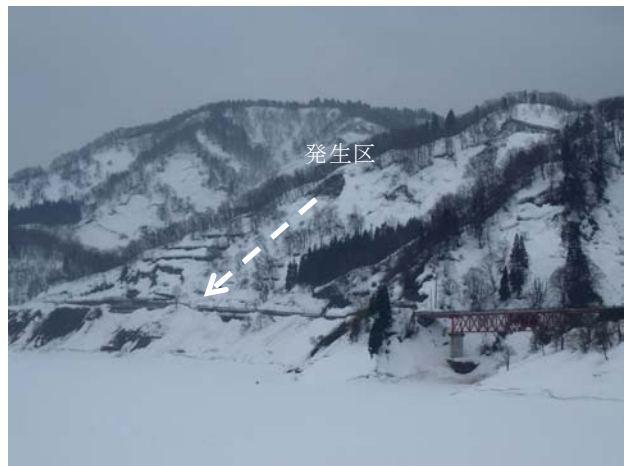


図2 雪崩発生区（地面露出部）と道路

[成果と効果]

雪崩は東南東向きの低灌木の生えた斜面（標高450m付近）から発生した（図2）。走路の左右には雪崩防止柵が設置されていたが、その中間のより上方の斜面から発生し、2つに分かれて道路に到達した。

長井アメダス（図3）によれば、1週間前から気温がプラスに移行し、これに風速や日射の増加および降雨の存在から、急速に融雪が進行し全層雪崩の発生に至ったものと推察された。ただし、発生区は吹き溜まりとなっており積雪深は3~4mであったとのことである。

なお、3月10日に行った雪崩安全点検の結果を受けて、安全対策が完了次第、開通することとなった。

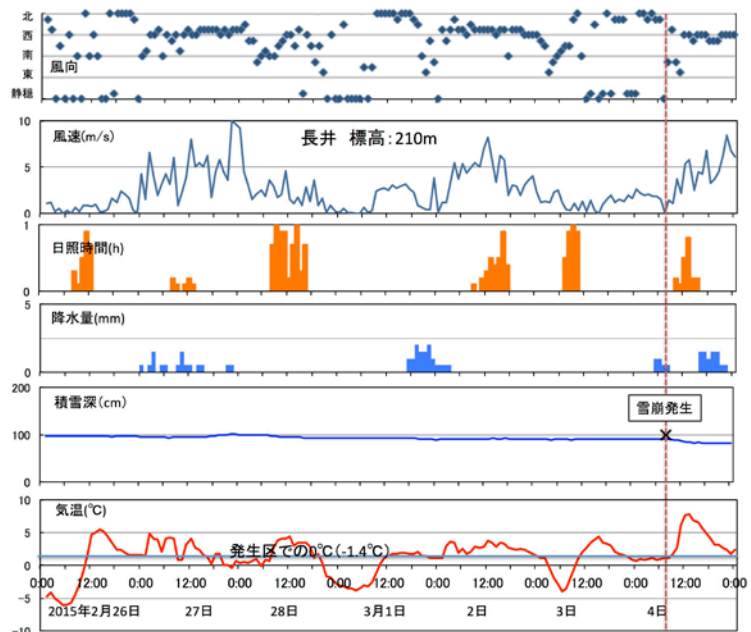


図3 雪崩発生までの長井アメダスの気象要素の推移